

Title	京大広報 No. 635
Author(s)	
Citation	京大広報 (2008), 635: 2647-2668
Issue Date	2008-06
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/196452">http://hdl.handle.net/2433/196452</a>
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

# 京大広報

No. 635

2008.6



西部構内遺跡発掘調査説明会  
—関連記事 本文2652ページ—

## 目次

新たな学問領域を目指して 野生動物研究センター長 伊谷原一	2648
〈大学の動き〉	
次期総長候補者に松本 紘理事・副学長を選出	2650
博士学位授与式	2651
名誉教授称号授与式	2651
〈部局の動き〉	
西部構内で鎌倉時代邸宅跡の発見	2652
〈日誌〉	2652
〈寸言〉	
還暦のベンチャー事始め 出口治明	2653
〈随想〉	
洛書き 名誉教授 桑原保正	2654
〈洛書〉	
桜満開のキャンパスで 吉村成弘	2655
〈資料〉	
平成20年度入学試験諸統計	2656
〈話題〉	
「第1回京都大学地球環境フォーラム」を開催	2661

宇治キャンパスで平成20年度新入大学院生等の ための安全衛生教育を実施	2661
〈計報〉	2662
〈公開講座〉	
平成20年度(第72回) 京都大学 食と農の マネジメント・セミナー	2663
フィールド科学教育研究センター公開講座2008 森のしくみとその役割 ー変わりゆく芦生の 森と生き物たちー	2663
再生医科学研究所第3回公開講演会 「再生医学に必要なものーからだの自然治癒力 とともにー」	2664
理学研究科数学教室公開講座「現代数学展望」	2665
数理解析研究所 数学入門公開講座	2665
霊長類研究所公開講座「サルから学ぶ」	2666
〈お知らせ〉	
無料法律相談のお知らせ	2666
〈遠隔地施設の紹介〉	
防災研究所附属流域災害研究センター 穂高砂防観測所	2667

## 新たな学問領域を目指して

野生動物研究センター長 伊谷 原一

2008年4月1日、京都大学野生動物研究センターが発足しました。同センターの目的と今後の展望についてご紹介いたします。

地球上には、未知の種を含めると約1,000万種以上の多様な野生生物が生息しているといわれています。現在、その存在が確認され、学名が付けられた種は約140万種です。しかし、これらの中の5,000種以上が、IUCN(国際自然保護連合)の作成した「世界の絶滅のおそれのある動物の種名リスト(レッドデータブック)」に掲載されています。たとえば、約4,500種いる哺乳類の20%近くが、また約9,500種の鳥類の10%以上が絶滅危惧種に相当します。

アジア、アフリカ、南米に広大な面積をもつ熱帯林は野生動物の宝庫です。しかし、20世紀最後の10年間に、日本国土の4倍近くの熱帯林が失われました。また、熱帯林だけではなく、山地やサバンナ、極地などあらゆる自然環境が悪化し、本来そこに生息していた野生動物はその姿を消しつつあります。環境破壊のほかにも、密猟、ブッシュミート交易、戦争、伝染病など、野生動物を絶滅の危機に追い込んでいる要因は多数あります。そして、それらはいずれも私たち人間の活動に起因するのです。私たちはいま、「自然」についてあらためて考えなおすべきではないでしょうか。

私たちは、野外でのキャンプやハイキングを楽しむ際に、「自然に出会う」、「自然と親しむ」といった表現を使います。つまり、都会での日常生活を「人間界」とし、ふだん接することの少ない世界を「自然界」と位置づけ、両者を対比させて見えています。しかし、本来「自然」とは、山や海、森、草原、川など、人類がそこで生まれ、生活してきた場所を指します。また、私たちは「ヒト」という動物の一種でありながら、「人間とそれ以外の動物」という差別化をはかりたがります。

これらは、多分に西欧的世界観の影響なのですが、「人間と自然」、「人間と動物」という二分法によって成立する人間中心の世界像は、もはや捨て去るべきではないでしょうか。新たな自然観、あるいは生命



観を創造するためには、まず私たち自身も自然の一部であることを認識すべきです。その上で「人間とは何か」という人間の本性について理解し、自然全体の中で「人間がどうあるべきか」を考え

ていくべきでしょう。

京都大学には、パイオニア精神を重視する伝統があります。今からちょうど半世紀前におこなわれた今西錦司によるアフリカ探検、桑原武雄のヒマラヤ初登頂、西堀栄三郎による南極越冬などがよい例でしょう。とくに、今西錦司によるアフリカでのゴリラ調査は、のちにチンパンジー、ボノボ、オランウータンなどアフリカ、アジアの大型類人猿を対象にした新たなパイオニアワークを生み出しました。今から60年前、ニホンザル研究にはじまった日本の霊長類学は、海外での多彩な研究を加え、常に世界の第一線をリードしてきたのです。

しかし、霊長類以外の野生動物、とくに大型哺乳類に関する研究において、日本は大きく遅れをとっています。また、このまま野生動物が減少し続ければ、今後そうした研究を発展させるどころか、それに取り組むことさえ不可能になるのです。今こそ、日本が霊長類研究で培ってきた経験と実績を野生動物の研究に生かさなければなりません。

野生動物研究センターは、京都大学のひとつの特徴である「フィールドワークに根ざした知の学統」を受け継ぎ、野生動物の研究と教育を通じて、京都大学の理念である「地球社会の調和ある共存に貢献すること」を目的としています。そして、それを実現するために、1. 絶滅の危惧される野生動物を対象とした基礎研究を通じて、その自然の生息地での暮らしを守り、飼育下での健康と長寿をはかるとともに、人間の本性についての理解を深める研究をおこなう、2. フィールドワークとライフサイエンス等の多様な研究を統合して新たな学問領域を創生し、



人間とそれ以外の生命の共生のための国際的研究を推進する、3. 地域動物園や水族館等との協力により、実感を基盤とした環境教育を通じて、人間を含めた自然のあり方についての深い理解を次世代に伝える、という3つの具体的な課題を掲げています。

京都大学には、さまざまな生きものを対象にした貴重かつ優れた研究が多数あります。しかし、ライ



オンやゾウやキリンの研究者はほとんどいません。野生動物を研究するためには、その生息地

に出かけていく必要がありますが、自然の生息地で彼らに出会うことは容易ではありませんし、その多くが絶滅の一途をたどっていることは前述のとおりです。

その一方で、希少種である彼らは私たちのすぐ身近にある動物園でも生活しています。その貴重な存在を活かすために、本センターは京都市動物園や名古屋市東山動物園との連携を実現しました。野生での研究と同時に、飼育下においても新たな研究に取り組むことができます。動物園はまさに「自然への窓」となりうるのです。

また、1948年に野生ニホンザルの調査がはじまった、日本の霊長類学発祥の地である幸島観察所と、世界自然遺産でサルとシカと多様な動植物がいる屋久島観察所という2つのフィールド研究施設が、霊長類研究所から本センターに移管されました。今後はニホンザルだけではなく、島全体の動植物を、さまざまな研究に活用することができます。

(株)三和科学研究所が熊本県の三角半島に所有していた熊本霊長類パークが、2007年4月に「チンパンジー・サンクチュアリ・宇土」と改称し、チンパンジー保護施設として再スタートを切りました。同年8月から、霊長類研究所が寄附講座としてその運営をおこなってきましたが、このサンクチュアリの運営も本センターに委譲されました。日本最大、76頭のチンパンジーが12の集団に分かれて生活しており、彼らを通して人間理解や福祉・長寿の研究を行うことができます。

これらの国内研究拠点に加えて、アフリカ、東南アジア、南米などにも海外研究拠点があります。専任教員



10人のフィールドワークの足跡を追えば、南極を含めた全大陸に及びますし、DNAの解析技術を持った教員もいます。教員がこれまでに扱ってきた野生動物は、ニホンザル、チンパンジー、ボノボ、オオカミ、サイ、イルカ、シャチなどのほか、ウシ、ウズラ、イヌといった家畜もいます。10人の兼任教員を加えれば、ゴリラ、ゾウ、クジャク、アホウドリ、ヒトなど、研究対象はさらに広がります。熱帯林から南極まで、海中からヒマラヤまで、陸・海・空の自然をフィールドワークできるのです。

大学院教育は、理学研究科生物科学専攻でおこないます。動物園で希少種を、国内研究拠点で日本の固有種を、さらにはアフリカやアジアでのフィールドワークを通して、修士課程や博士後期課程の学位を取得することも可能です。本センターから、多種多様な動物の研究者が育つ日も遠くはないでしょう。

野生動物研究センターは、京都大学が培ってきたフィールドワークの伝統を活かし、最新のライフサイエンスの手法を加えて、野生動物の自然の生息地での研究と、動物園での環境教育とをつなぐ架け橋になるとともに、「野生動物保全学」「動物園科学」「自然学」といった新たな学問領域の創生を目指しています。



## 大学の動き

## 次期総長候補者に松本 紘理事・副学長を選出

現総長の任期満了(9月30日)に伴う次期総長候補者の選考が行われ、5月23日開催の総長選考会議による第二次選考の結果、松本 紘理事・副学長が選出された。

総長候補者の選考は、5月15日の学内予備投票(郵便による投票は5月8日から15日、不在者投票は5月8日から14日)、臨時教育研究評議会、21日の総長選考会議による第一次選考、22日の学内意向投票及び決選投票を経て、23日の第二次選考において総長候補者を決定した。

なお、任期は10月1日から平成26年9月30日までの6年間となっている。



## 総長候補者の選考状況

## 1. 投票資格者数

学内予備投票	学内意向投票	決選投票
5,487名	2,143名	2,143名

## 2. 学内予備投票候補者資格者数 1,010名

## 3. 学内予備投票の投票結果

投票総数	うち有効投票数	無効投票数
3,182票	3,095票	87票

## 4. 第一次選考の結果

候補者氏名(五十音順)

大 畠 幸一郎(工学研究科)

成 宮 周(医学研究科)

西 本 清 一(工学研究科)

東 山 紘 久(理 事)

松 本 紘(理 事)

丸 山 正 樹(理 事)

## 5. 学内意向投票の投票結果

投票総数	うち有効投票数	無効投票数
1,374票	1,367票	7票

## 6. 決選投票の投票結果

投票総数	うち有効投票数	無効投票数
1,451票	1,434票	17票

候補者氏名(得票順)

松 本 紘(829票) 成 宮 周(605票)

## 7. 第二次選考の結果

候補者氏名

松 本 紘

## 松本 紘理事・副学長の略歴

生 年 月 日 昭和17年11月17日生(65歳)

昭和40年3月 京都大学工学部卒業

昭和42年3月 京都大学大学院工学研究科修士課程  
修了

昭和42年4月 京都大学工学部助手

昭和49年4月 京都大学工学部附属電離層研究施設  
助教授

昭和56年4月 京都大学超高層電波研究センター助  
教授

昭和62年7月 京都大学超高層電波研究センター教授

平成4年4月 京都大学超高層電波研究センター長  
(平成10年3月まで)

平成12年4月 京都大学宙空電波科学研究センター  
教授

平成14年4月 京都大学宙空電波科学研究センター  
長、評議員(平成16年3月まで)

平成16年4月 京都大学生存圏研究所教授

平成16年4月 京都大学生存圏研究所長(平成17年9  
月まで)

平成17年10月 京都大学理事・副学長(現在に至る)  
(総務部)



## 博士学位授与式

5月23日(金)午前10時30分から、京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールにおいて、尾池和夫総長、東山紘久理事・副学長(教育・学生担当)をはじめ、各研究科長・学舎長出席のもと、博士学位授与式が挙行された。

総長から、各授与者に対し学位記(平成20年5月

23日付)が手渡された後、総長の式辞があり、午前11時5分に終了した。

各分野別内訳は次のとおりである。

総長式辞は総長室ホームページをご覧ください。

[http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/intro/president/archive/080523\\_1.htm](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/intro/president/archive/080523_1.htm)

学 位	課程博士	論文博士	計	学 位	課程博士	論文博士	計
博士(文学)	1	—	1	博士(工学)	6	—	6
博士(教育学)	—	1	1	博士(農学)	9	4	13
博士(法学)	—	—	—	博士(人間・環境学)	5	—	5
博士(経済学)	1	—	1	博士(エネルギー科学)	2	—	2
博士(理学)	11	—	11	博士(地域研究)	—	—	—
博士(医学)	12	3	15	博士(情報学)	—	1	1
博士(医科学)	—	—	—	博士(生命科学)	4	—	4
博士(社会健康医学)	—	—	—	博士(地球環境学)	—	—	—
博士(薬学)	—	—	—	計	51	9	60



(教育推進部)

## 名誉教授称号授与式

5月26日午前10時から、総長応接室において、木谷雅人理事・副学長、塩田浩平医学研究科長の出席のもとに名誉教授称号授与式が挙行され、尾池和夫

総長から橋本信夫元教授(医学研究科)、西川伸一元教授(医学研究科)にそれぞれ称号が授与された。



名誉教授の称号を授与される橋本元教授



名誉教授の称号を授与される西川元教授

(総務部)

## 部局の動き

## 西部構内で鎌倉時代邸宅跡の発見

京都大学構内には、吉田キャンパスのほぼ全域をはじめ、高槻市の農学研究科附属安満農場、和歌山県の瀬戸臨海実験所などにも重要な遺跡が残されていることが知られている。文化財総合研究センターは、こうした遺跡の調査研究、成果報告と保存活用をおもな目的として活動をおこなっている。本年1月～5月には、学生部による課外活動施設の建設に先立ち、西部構内で発掘調査を実施した。その際見つかった鎌倉時代の邸宅跡に関する成果を紹介する。

注目される遺構は、西部講堂の東、東大路通りにほど近い場所で、現在の地表下約2mの深さで見つかった、東西方向の幅1.4mをはかる精美な石敷きである。建物縁辺の床面を飾るとともに、軒先からのしずくを受ける雨落ち溝がともなっている。調査では、南側と西側にも同様な石敷きや溝が確認できたことから、これらに囲まれるひとつの建物の存在が確実となった。囲まれた内部からは、地面の窪みを埋めるように無数の礫が密集して出土している。これは、「地業」と呼ばれる地盤強化の跡と考えられ、本来はこの上面に礎石を置き、柱を載せたのであろう。建物の時期は、出土土器の年代観から、鎌倉時代前半期(西暦1200～1250年ごろ)にあたる。

このように手の込んだ建造が可能な造営主は、高位の権力者であったと推察され、当時太政大臣にのぼり権勢をきわめていた公卿西園寺公経(1171～1244)が有力な候補者となる。一帯の地名の吉田泉

殿町は、彼が営んだ池泉をそなえた別邸が「吉田泉殿」とよばれたことに由来しており、規模や技術の水準からみて、今回の遺構が泉殿の建造物の一部である可能性は高い。また、この時期の貴族の邸宅は、平安時代以来の寝殿造りの伝統を継ぎ、広大な敷地に池泉庭園と複数の殿舎を配していたとされることから、西部構内一帯には泉殿を構成する遺構がさらに残されていることも予想される。

今回の発見は、文献史料の記載と伝承から想像するのみであった鴨川東岸一帯の貴族の邸宅について、その存在をはじめて具体的に示すもので、中世京都の歴史を復元するうえできわめて大きな意義をもつとともに、建築史や土木技術史にも貴重な情報を提供するものと考えている。



鎌倉時代の建物北縁を飾る石敷き(東から)

(文化財総合研究センター)

## 日誌

2008.4.1 ～ 4.30

4月2日 紅萌祭(～4日)

4日 名誉教授称号授与式

〃 学生部委員会

7日 学部入学式

〃 大学院入学式

8日 役員会

14日 企画委員会

15日 部局長会議

16日 国際交流委員会

18日 財務委員会

22日 役員会

〃 教育研究評議会

24日 図書館協議会

## 寸言

## 還暦のベンチャー事始め

出口 治明



昭和47年に法学部を卒業し、偶然が重なって日本生命に入りました。その頃から、川の流れて流されて生きていこう、と思っていたような気がします。所詮、人間の英知などたかがしれたもの、その時々のお会いを大切に悔いのない毎日を過ごしていけばよい、と観念していました。全共闘運動の後遺症が残っていたのかもしれませんが。

日本生命は、上司に恵まれたと思いますが、とても自由闊達な良い会社でした。京都支社の後大阪本店の企画部に配属になりましたが、住み慣れた京都から阪急電車で通勤していました。その後、29歳の時に3か月ほど欧米に研修に出されましたが、初めて観る世界は広くて保険会社の在り方も多様であることに気がつきました。30歳で東京の運用企画部門に転勤になり、日本興業銀行に派遣されましたが、ここでもいろいろな意味で大変勉強になりました。続いて、大蔵省や日本銀行との窓口を担当しましたが、保険会社に勤めていたおかげで、早くから日本の少子高齢化を認識することができました。

少子高齢化で人口が減少すれば、生保は全体として縮小均衡の世界に入っていきます。それを避けようとするれば、他業(銀行、証券など)に進出するか、海外市場に出ていくかし道はありません。金融制度改革の動きは生保の将来を大きく左右すると考え、何度も上司に意見具申した結果、生保も同63年から金融制度調査会に参画することになりました(それまでは、生保の問題は、保険審議会で審議するという棲み分けがなされていたのです)。そして、その受け皿として生保協会の中に財務企画専門委員会を創り、初代の委員長になりました。これらのことから、平成8年に保険業法が改正され、業務の多様化が実現しました。

同4年、ロンドンに赴任しました。44歳になって学ぶ英語は大変でしたが、異国での3年間は得難い

体験でした。同7年に国際業務部長に任命され、中国などへの海外進出を手がけることになりました。しかし、バブルが崩壊した後会社の方針が変わり、他業や海外への進出は行わないことになりました。営業を経験した後、55歳で子会社に出向になりましたが、それを機会に1冊の本を書きました(「生命保険入門」岩波書店)。生保業界に戻ることはないと思っていたので、卒業論文のつもりで書いたのです。

その後、小宮山総長の依頼で東京大学のお手伝いをしていましたが(モバイル・ミュージアムの実現には、同じゼミだった興和不動産の名倉社長に助けられました)、同18年の春に、友人の紹介であすかアセットマネジメントの谷家さんに会いました。うまく説明できないのですが、30分ぐらい話ただけでゼロから生保を創ってみようという気持ちになりました。本当に人間の出会いというのは不思議なものです。谷家さんに「まず何を準備すればいいですか?」と聞かれたので「若くて生保経験のない人を」と即答しました。こうして、パートナーの岩瀬君、30歳(当時)を紹介されました。私は今年で60歳になりますので、友人から「還暦のベンチャー」とからかわれていますが、同年の7月から親子のような2人で仕事を始めました。

まず、金融庁から免許を貰わなければなりません。戦後新設の生保は、全て内外の保険会社が親会社になっていましたが、まったく新しいインターネット販売の生保を創りたかったので、保険会社の出資を仰ぐ気持ちはありませんでした。免許申請、資金集め、人集め、事務システム作りと、この2年間、我ながらよく働いたと思います。うれしい誤算もありました。人材紹介会社を介さずに、ほとんどの社員がインターネット経由で応募してくれたのです(京大の卒業生5名を含む)。

こうして、多くの皆さんに助けられながら、この4月に「ライフネット生命」([www.lifenet-seimei.co.jp/](http://www.lifenet-seimei.co.jp/))が誕生しました。戦後初の独立系の生保です。「生命保険入門」に記したように、どこよりも正直で、わかりやすく便利で安い商品・サービスを提供する生保を実現したいと考えています。

(でぐち はるあき ライフネット生命保険株式会社 代表取締役社長 昭和47年法学部卒)



## 随想

## 洛書き

名誉教授 桑原 保正

“角を矯めて牛を殺す”という諺がある。牛の角が立派すぎ、怖いので切ってくれと家人に懇願され、切り落としたら、大切な牛が死んでしまった”との事で、“枝葉の事に關わって本体を損なう”の意で



ある。古く1638年の俳諧・毛吹草に“角を直して牛を殺す”と似た表現があることを、小学館発行の日本国語大辞典で知った。鹿の角は芯まで角質化して、毎年生えかわる。しかし、同じ角でも鹿と違って牛の場合は、付け根付近の中心部には血液が流れ、冬でも触ると温かい。現実に関しても不思議ではない。

年の所為か、角を矯めたのではないかと思える事態が目につく。幸いその改善が始まるという、“ゆとり教育(平成10年12月提唱)”はその1例である。平成15年3月発表の「英語が使える日本人」育成のための行動計画」で、小学校への英語教育導入が提唱され、国際的な活躍が期待できるグローバルな人材を育てようと実験的教育が始まっている。しかし、最近、講義をしていて驚いた。多くの学生が筆記体のアルファベットを読めない。聞けば、“ゆとり教育”にともない、同12年度以降の中学1年生から、筆記体は習わなくても良いらしい。米国籍学生の手書きリポートがブロック体で書かれていたことから、筆記体はサインでのみ生きているのかもしれないとの危惧もあるが、パスポートのサインを漢字で書いて、国際人として通用するのであろうか？。

大学の外国語教育から、第二外国語としての西欧言語の地位は低下し、アジア系言語が好まれている。大学院の入試科目として一般に独・仏語が要求されなくなって久しい。その結果、西欧文明の理解を言語面から支えていた礎が消えた。加えて高校では大学入試での必要性が低いとして、“世界史飛ばし”が横行していたために、現在では、西欧文明の歴史観

が希薄で、“グローバルな人材育成”とは程遠い、歪な学生が育っているのではなかろうか。第二外国語、特に旧制高校に起源する独語教育の低迷により、大学生独自の文化がキャンパスから消え、中高生のジャリ文化に同化した。外国映画(DVDを含めて)といえは米ハリウッド映画かアジア映画ばかりで、ヨーロッパ映画を見る機会はなくなって久しい。

有名進学校は別として、理系学部へ進学志望する普通科の高校生は全体の3割程度、私立高校の極端な例では5%である。また農業や工業など実業学科から、専門色の薄い総合学科へ改組も進行している。高校生にとって、理系の学部は3K(きつい、汚い、危険)分野と思われているらしい。一方、現在退職期にある団塊世代が高校生の時は、工学部の発展時で、50%近くが理系を志望した。エネルギー資源はない、鉱物資源もない、さらに食糧自給率39%(カロリー・ベース)と先進国で最下位の日本を世界水準に引き上げ、安物の代表であった“made in Japan”製品を世界のtop brandに仕上げたのは団塊世代である。理工系学部に優秀な学生を集め、世界をリードするエネルギーを維持できなければ、いずれ中進国に追い上げられ、我が国の明日はない。理科離れが叫ばれて久しいが、既に小中学校では理科の得意な教師が少ないと聞く。“矯めてきた角”の影響はあまりにも深刻である。

大学では、1・2期校制度の廃止、教養部の解体、大学院化が進められ、教員身分の平等化と研究促進が計られた。しかしノーベル賞受賞者数は期待されるほど増えていない。公務員の削減と財政の健全化を狙って、国立大学は法人化され、経常経費は年々削減されている。不足分は競争原理に基づく研究費の獲得で賄えとのことだが、説明責任を果たし易い応用研究のみが注目され、大学で最も大切な独創的・基礎的研究は評価されない。独創的研究を生む土壌である経常経費の削減こそは、今後日本の“矯めた角”となるのではなかろうか。

(くわはら やすまさ 元農学研究科教授 平成16年退官、専門は化学生態学)

## 洛書

## 桜満開のキャンパスで

吉村 成弘

昨年6月、長年住み慣れた吉田キャンパスを離れ、医学部構内の建物に引っ越した。そして今年4月、ここで初めて桜の季節を迎えた。長年京都に住んでいると春の匂いに敏感になる。桜が開花する2週間前頃に必ず沈丁花(ジンチョウゲ)が匂い始める。今年もそうであった。今年は例年に比べ沈丁花の香りが少なくがっかりしたが、桜は実に美しく咲いた。特に医学部構内の桜には感動した。京都には桜の名所が多いが、わざわざそのような場所に出かける必要もないほど見事である。夜、研究を終え、帰宅する際には夜桜を楽しむ。気がついたが、桜の木のそばには必ず街灯が配置されている。なんと粋な計らいではないか。このキャンパスをデザインした方のセンスに感服し、心から感謝しながら妖艶に咲き誇る花をしばし独り占めするのである。

いつの頃からか桜の季節には坂口安吾を読むようになった。「桜の森の満開の下」。もう10年以上になるかもしれない。海外で生活していた時期を除くと、ほぼ毎年欠かさず読んでいる。

桜の花の下から人間を取り去ると恐ろしい景色になります。

冒頭のこの一節は、私が抱いていた桜へのイメージを木端微塵に破壊するほど衝撃であった。山で生まれ育った野蛮で非道な男が、町で育った美しい女と出会い、共に町で生活を始める。孤独、美、生と死。天真爛漫な女の陰に潜む悲惨なまでの孤独感。町で生活を始めた男を包む謎の孤独感。初めてこの作品を読んだときに受けた衝撃は今でも忘れることができない。女が何よりも愛したのは、男が盗んでくる装飾品の数々ではなく、人の生首である。そしてその首で果てしない「首遊び」に興じる。毛が抜け、肉が腐り、白骨になっても女はカラカラと笑いながら次々に首を要求しては遊びに興じる。

今夜は白拍子の首を持ってきておくれ、とびきり



美しい白拍子の首だよ。

永遠と続く女の欲望と無限の無意味さに嫌気がさし、ついに男は山に帰る決意をする。そして、その途中、満開の桜の下を通りかかったとき、男は女を殺してしまう。女の屍が突然消え、それを触ろうとしていた男の手も消え、

あとに花びらと、冷たい虚空がはりつめているばかりでした。

という一節で幕を閉じる。

私がこの作品を繰り返し読み続けるのは、読むたびに作品から受け取るメッセージが異なるからである。女はなぜ首遊びに興じたのか、男はなぜ女を殺したのか、満開の桜の下はなぜ孤独に包まれているのか。それらの答えは作品の中ではっきりと与えられていない。だからこそ、読み手の気持ち次第なのである。もしあらかじめ安吾が作品の中でその答えを描いていたとしたら、この作品の価値はなくなってしまうのではないか。

さて今年。平和や人権が声高に叫ばれる昨今、私が感じたのは、物事の表裏一体性。美しさとおぞましさは表裏一体である。美しいものの背後にはそれを保障するおぞましさがあり、美しければ美しいだけその背後にあるものはおぞましく、おぞましかればおぞましいだけ美しさはより美しく輝く。女の美しさと首遊びという醜悪。満開の桜の下に漂う絶対的な孤独感。「桜の樹の下には幾体もの屍が折り重なり、その養分を吸い上げることによってかの花はかくも美しく咲き乱れる」と言ったのは梶井基次郎だったか。人はコドモから青年になる時にこの表裏一体性を知るのである。そんなことを思いながらこの作品を読んでいると、なにやら平和という二文字の背後に立ち上る血や硝煙の匂いをますます強く感じずにはいられない。

それにしても今年の桜は美しかった。また来年も満開の桜の下で安吾を読みたいと思う。その時は何を感じ取るのか、今から楽しみである。

(よしむら しげひろ 生命科学研究科 准教授  
専門は、ナノメートルの世界で生命の基本原理を理解すること)

## 資料

## 平成20年度入学試験諸統計

## 1. 募集人数・志願者数・合格者数・入学者数等調

学部・日程		募集人数	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学者 辞退者数	追加 合格者数	入学者数
総合人間 学部	前期(文系)	65 <sup>人</sup>	226 <sup>人</sup>	226 <sup>人</sup>	221 <sup>人</sup>	67 <sup>人</sup>	1 <sup>人</sup>	1 <sup>人</sup>	122 <sup>人</sup>
	前期(理系)	55	206	206	199	56			
文学部	前期	220	651	651	645	224			224
教育学部	前期(文系)	50	176	176	174	51			61
	前期(理系)	10	31	31	31	10			
法学部	前期	320	791	791	778	328	1		327
経済学部	前期(一般)	180	585	585	575	191			241
	前期(論文)	50	218	175	172	50			
理学部	前期	311	865	845	833	313	1		312
医学部	前期	223	624	603	590	237	4		258
	後期	20	166	166	83	25			
薬学部	前期	80	231	231	227	82			82
工学部	前期	955	2,401	2,401	2,364	973	2		971
農学部	前期	300	796	796	783	316	2		314
小計	前期	2,819	7,801	7,717	7,592	2,898			
	後期	20	166	166	83	25			
合計		2,839	7,967	7,883	7,675	2,923	11		2,912

## 〔外国学校出身者のための選考の実施結果（外数）〕

学部	募集人数	志願者数	第1次選考合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
法学部	10 <sup>人</sup>	32 <sup>人</sup>	20 <sup>人</sup>	15 <sup>人</sup>	8 <sup>人</sup>	8 <sup>人</sup>
経済学部	10	21	15	12	8	8



## 〈医学部・薬学部学科・専攻別内訳〉

学部・日程		募集人数	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学 辞退者数	追加 合格者数	入学者数
医学部	前期	223 <sup>人</sup>	624 <sup>人</sup>	603 <sup>人</sup>	590 <sup>人</sup>	237 <sup>人</sup>	4 <sup>人</sup>		258 <sup>人</sup>
	後期	20	166	166	83	25			
医学科	前期	100	321	300	294	105			105
保健学科	前期	123	303	303	296	132	4		153
	後期	20	166	166	83	25			
看護学専攻	前期	63	149	149	146	69	2		74
	後期	7	60	60	26	7			
検査技術科学専攻	前期	30	85	85	83	31			39
	後期	7	51	51	24	8			
理学療法専攻	前期	15	42	42	41	17	1		19
	後期	3	29	29	16	3			
作業療法専攻	前期	15	27	27	26	15	1		21
	後期	3	26	26	17	7			
薬学部	前期	80	231	231	227	82			82
薬科学科	前期	50	143	143	139	51			51
薬学科	前期	30	88	88	88	31			31

## 〈工学部・農学部学科別内訳〉

学部・日程		募集人数	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学 辞退者数	追加 合格者数	入学者数
工学部	前期	955 <sup>人</sup>	2,401 <sup>人</sup>	2,401 <sup>人</sup>	2,364 <sup>人</sup>	973 <sup>人</sup>	2 <sup>人</sup>		971 <sup>人</sup>
地球工学科	前期	185	491	491	487	189			189
建築学科	前期	80	224	224	221	82			82
物理工学科	前期	235	498	498	486	238			238
電気電子工学科	前期	130	299	299	292	132			132
情報学科	前期	90	216	216	210	92			92
工業化学科	前期	235	673	673	668	240	2		238
農学部	前期	300	796	796	783	316	2		314
資源生物科学科	前期	94				97	1		96
応用生命科学科	前期	47				49			49
地域環境工学科	前期	37				40			40
食料・環境経済学科	前期	32				34	1		33
森林科学科	前期	57				60			60
食品生物科学科	前期	33				36			36

## 2. 合格者 最高点・最低点（総点）調

学 部	日 程		満 点	総 点																																																										
				最 高 点	最 低 点	平 均 点																																																								
総 合 人 間 学 部	前 期	(文 系)	750 点	548.00 点	401.66 点	450.58 点																																																								
		(理 系)	800	563.75	366.75	416.51																																																								
文 学 部	前 期		700	543.26	452.00	480.51																																																								
教 育 学 部	前 期	(文 系)	900	655.63	551.16	588.60																																																								
		(理 系)	900	616.73	540.28	571.18																																																								
法 学 部	前 期		750	632.35	481.10	523.17																																																								
経 済 学 部	前 期	(一 般)	800	660.70	510.50	545.99																																																								
		(論 文)	1,000	813.70	539.13	593.32																																																								
理 学 部	前 期	注 1	650	513.00	294.00	343.01																																																								
		(数理 30 位)注 2	(400)	(362.00)	(257.00)	—																																																								
医 学 部	前 期		—	—	—	—																																																								
	後 期		—	—	—	—																																																								
<table><tr><th rowspan="2">医学部学科別</th><th rowspan="2">日 程</th><th rowspan="2">満 点</th><th colspan="3">総 点</th></tr><tr><th>最 高 点</th><th>最 低 点</th><th>平 均 点</th></tr><tr><td>医 学 科</td><td rowspan="5">前 期</td><td>1,300 点</td><td>1063.91 点</td><td>864.16 点</td><td>926.05 点</td></tr><tr><td>保健学科看護学専攻</td><td>1,200</td><td>784.70</td><td>610.06</td><td>664.32</td></tr><tr><td>保健学科検査技術科学専攻</td><td>1,200</td><td>827.03</td><td>695.60</td><td>744.73</td></tr><tr><td>保健学科理学療法学専攻</td><td>1,200</td><td>901.73</td><td>757.26</td><td>794.76</td></tr><tr><td>保健学科作業療法学専攻</td><td>1,400</td><td>1058.93</td><td>724.10</td><td>827.03</td></tr><tr><td>保健学科看護学専攻</td><td rowspan="4">後 期</td><td>1,000</td><td>895.00</td><td>839.70</td><td>862.79</td></tr><tr><td>保健学科検査技術科学専攻</td><td>1,000</td><td>844.30</td><td>822.10</td><td>830.68</td></tr><tr><td>保健学科理学療法学専攻</td><td>1,000</td><td>891.20</td><td>866.30</td><td>882.27</td></tr><tr><td>保健学科作業療法学専攻</td><td>1,200</td><td>951.40</td><td>885.00</td><td>923.37</td></tr></table>							医学部学科別	日 程	満 点	総 点			最 高 点	最 低 点	平 均 点	医 学 科	前 期	1,300 点	1063.91 点	864.16 点	926.05 点	保健学科看護学専攻	1,200	784.70	610.06	664.32	保健学科検査技術科学専攻	1,200	827.03	695.60	744.73	保健学科理学療法学専攻	1,200	901.73	757.26	794.76	保健学科作業療法学専攻	1,400	1058.93	724.10	827.03	保健学科看護学専攻	後 期	1,000	895.00	839.70	862.79	保健学科検査技術科学専攻	1,000	844.30	822.10	830.68	保健学科理学療法学専攻	1,000	891.20	866.30	882.27	保健学科作業療法学専攻	1,200	951.40	885.00	923.37
医学部学科別	日 程	満 点	総 点																																																											
			最 高 点	最 低 点	平 均 点																																																									
医 学 科	前 期	1,300 点	1063.91 点	864.16 点	926.05 点																																																									
保健学科看護学専攻		1,200	784.70	610.06	664.32																																																									
保健学科検査技術科学専攻		1,200	827.03	695.60	744.73																																																									
保健学科理学療法学専攻		1,200	901.73	757.26	794.76																																																									
保健学科作業療法学専攻		1,400	1058.93	724.10	827.03																																																									
保健学科看護学専攻	後 期	1,000	895.00	839.70	862.79																																																									
保健学科検査技術科学専攻		1,000	844.30	822.10	830.68																																																									
保健学科理学療法学専攻		1,000	891.20	866.30	882.27																																																									
保健学科作業療法学専攻		1,200	951.40	885.00	923.37																																																									
薬 学 部	前 期		950	671.36	530.26	589.70																																																								
<table><tr><th rowspan="2">薬学部学科別</th><th rowspan="2">日 程</th><th rowspan="2">満 点</th><th colspan="3">総 点</th></tr><tr><th>最 高 点</th><th>最 低 点</th><th>平 均 点</th></tr><tr><td>薬 科 学 科</td><td rowspan="2">前 期</td><td>950 点</td><td>661.00 点</td><td>539.15 点</td><td>589.25 点</td></tr><tr><td>薬 学 科</td><td>950</td><td>671.36</td><td>530.26</td><td>590.44</td></tr></table>							薬学部学科別	日 程	満 点	総 点			最 高 点	最 低 点	平 均 点	薬 科 学 科	前 期	950 点	661.00 点	539.15 点	589.25 点	薬 学 科	950	671.36	530.26	590.44																																				
薬学部学科別	日 程	満 点	総 点																																																											
			最 高 点	最 低 点	平 均 点																																																									
薬 科 学 科	前 期	950 点	661.00 点	539.15 点	589.25 点																																																									
薬 学 科		950	671.36	530.26	590.44																																																									
工 学 部	前 期		—	—	—	—																																																								
<table><tr><th rowspan="2">工学部学科別</th><th rowspan="2">日 程</th><th rowspan="2">満 点</th><th colspan="3">総 点</th></tr><tr><th>最 高 点</th><th>最 低 点</th><th>平 均 点</th></tr><tr><td>地 球 工 学 科</td><td rowspan="2">前 期</td><td>1,000 点</td><td>716.41 点</td><td>535.78 点</td><td>592.94 点</td></tr><tr><td>建 築 学 科</td><td>1,050</td><td>771.93</td><td>584.78</td><td>646.25</td></tr><tr><td rowspan="2">物 理 工 学 科</td><td rowspan="2">前 期</td><td>(配 点 A)</td><td>1,000</td><td>702.66</td><td>586.00</td><td>628.86</td></tr><tr><td>(配 点 B)</td><td>1,000</td><td>684.03</td><td>522.91</td><td>576.88</td></tr><tr><td rowspan="2">電 気 電 子 工 学 科</td><td rowspan="2">前 期</td><td>(配 点 A)</td><td>1,000</td><td>926.68</td><td>626.92</td><td>705.59</td></tr><tr><td>(配 点 B)</td><td>1,000</td><td>693.55</td><td>521.68</td><td>573.13</td></tr><tr><td>情 報 学 科</td><td rowspan="2">前 期</td><td>1,000</td><td>768.61</td><td>521.38</td><td>593.10</td></tr><tr><td>工 業 化 学 科</td><td>1,000</td><td>774.00</td><td>532.70</td><td>585.70</td></tr></table>							工学部学科別	日 程	満 点	総 点			最 高 点	最 低 点	平 均 点	地 球 工 学 科	前 期	1,000 点	716.41 点	535.78 点	592.94 点	建 築 学 科	1,050	771.93	584.78	646.25	物 理 工 学 科	前 期	(配 点 A)	1,000	702.66	586.00	628.86	(配 点 B)	1,000	684.03	522.91	576.88	電 気 電 子 工 学 科	前 期	(配 点 A)	1,000	926.68	626.92	705.59	(配 点 B)	1,000	693.55	521.68	573.13	情 報 学 科	前 期	1,000	768.61	521.38	593.10	工 業 化 学 科	1,000	774.00	532.70	585.70	
工学部学科別	日 程	満 点	総 点																																																											
			最 高 点	最 低 点	平 均 点																																																									
地 球 工 学 科	前 期	1,000 点	716.41 点	535.78 点	592.94 点																																																									
建 築 学 科		1,050	771.93	584.78	646.25																																																									
物 理 工 学 科	前 期	(配 点 A)	1,000	702.66	586.00	628.86																																																								
		(配 点 B)	1,000	684.03	522.91	576.88																																																								
電 気 電 子 工 学 科	前 期	(配 点 A)	1,000	926.68	626.92	705.59																																																								
		(配 点 B)	1,000	693.55	521.68	573.13																																																								
情 報 学 科	前 期	1,000	768.61	521.38	593.10																																																									
工 業 化 学 科		1,000	774.00	532.70	585.70																																																									
農 学 部	前 期		1,050	773.03	586.40	640.49																																																								

注1：最高点は合格者のうち総点が最も高い者の得点である。最低点は合格者のうち順位が最下位であった者の得点である。平均点は合格者の総点の平均点である。

注2：合格者のうち個別学力検査の成績順位が「数学」と「理科」の得点合計を用いて定められる30位までの者の「数学」と「理科」の得点合計。

(備考) 1) 法学部・経済学部の外国学校出身者のための選考を除く。  
2) 総点については、前期・後期とも合格発表時のものである。

## 3. 志願者・入学者 出身高校等所在都道府県別調

上段…志願者数  
下段…入学者数

都道府県	学 部										計
	総合 人間	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農	
北海道	11 5	8 3	7 2	11 5	7	22 5	7 3	3	26 6	10 3	112 32
東 北	青 森	2 1	2	1		6	1		4	1 1	17 2
	岩 手	1	2	2 2	1 1	3 2			6 1		15 6
	宮 城	5 1	4 1	2	3 2	2 1	7 1	3 1	2 4	7 3	43 14
	秋 田	4 1	1		2 1	2 2	7 1	1	3 1		21 5
	山 形	4 3	2 2		1 1	4 3			2		13 9
	福 島	2	1	1		2	11 1	6	1 1	11 4	5 40 6
	茨 城	1	7 2	3	5 3	9 2	10 6	3 1	1 1	24 11	4 28
関 東	栃 木		6 1	1	4 2	1	5 1	5 2	14 4	2 1	38 11
	群 馬	7	4 1	3 1	1 1	4 1	10 3	5 1	3 1	12 3	4 16
	埼 玉	11 4	12 3	3 2	2	13 3	11 1	4	3	22 3	15 18
	千 葉	9 1	9 2	6	6 1	15 3	23 10	10 1	3 1	23 6	13 29
	東 京	30 7	37 10	18 4	42 13	79 15	71 17	28 9	8 2	68 21	38 106
	神奈川	15 6	15 2	3 1	6 2	25 5	20 4	12 3	4 3	40 11	16 44
	新 潟	3	4 2	2 1	4 2	4 1	8 2	5 1		13 6	1 16
中 部	富 山	1	3 1	1	1	4 1	6 2	7 1	1	14 8	6 14
	石 川	2 1	14 3	2	5 3	10 5	13 3	17 5	3 1	29 11	6 36
	福 井	3	10 6	4	9 5	6 2	7 4	7 3	4 2	27 7	8 34
	山 梨	1	4	3 1	2 1		3		1 1	3 2	4 6
	長 野	4 2	8 1	1	5 2	5 2	18 6	6 1	2	13 4	7 19
	岐 阜	10 3	10 7	2 1	17 7	15 5	28 8	7 2	6 4	43 19	12 61
	静 岡	10 3	15 4	7 1	9 3	8 6	21 5	11 4	5 2	60 16	16 53
九 州	愛 知	21 9	33 11	11 3	38 12	38 10	50 27	43 14	15 8	148 67	43 22

都道府県		学							部				計
		総合 人間	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農		
近 畿 畿 東	三 重	82	94	52	114	102	218	198	41	4017	108	13756	
	滋 賀	125	136	95	2010	123	145	164	51	8834	185	20778	
	京 都	305	7620	204	10745	11637	5021	8728	196	273108	7527	853301	
	大 阪	8423	10341	3311	14763	13341	11356	15239	4214	464185	17073	1,441546	
	兵 庫	3813	5620	176	10150	9030	5722	11851	268	257120	8237	842357	
	奈 良	165	3917	95	7340	6926	3716	6631	1912	19698	6729	591279	
	和歌山	62	156	31	8	86	133	148	54	5128	11	13458	
中 国	鳥 取	21	1	2	94	1	43	11		104	51	3514	
	島 根	21	43		11		13	63	2	84	52	2914	
	岡 山	83	2110	2	84	124	185	42	5	2917	74	11449	
	広 島	114	165	63	239	186	2913	147	95	8029	226	22887	
	山 口	4	54	1	93		73	82	1	1810	54	5826	
四 国	徳 島		73	21	75	43	94	103	1	158	43	5930	
	香 川	2	135	1	102	103	125	6	42	317	3	9224	
	愛 媛	3	102	2	84	5	153	114	2	249	61	8624	
	高 知	2	62	2	33	3	32	4	1	1510	53	4417	
九 州	福 岡	177	2412	5	256	257	3815	2410	111	9838	3313	300109	
	佐 賀	2	2	1	3	31	82	21		43	37	287	
	長 崎	41	3		52	4	31	62	1	149	91	4916	
	熊 本	1	51		31	82	83	61	1	146	104	5618	
	大 分	21	5		31	1	24	4	1	94	52	328	
	宮 崎	52	41		62	31	3	2	1	84	51	3711	
	鹿児島	10	3	22	143	102	135	7	1	236	81	9119	
	沖 縄				23	31	5	3		52	22	205	
合 計		426122	651224	20560	780326	797237	847308	778257	22782	2,386971	789314	7,8862,901	

(備考) 外国学校出身者のための専攻を除く。

高等学校・中等教育学校出身者のみ各欄に含む。



## 4. 志願者・入学者 入学資格取得年別調

学 部	志 願 者						入 学 者					
	総数	現 役 20. 3卒	浪 人 19. 3卒	18. 3卒	17. 3卒	16. 3以前卒	総数	現 役 20. 3卒	浪 人 19. 3卒	18. 3卒	17. 3卒	16. 3以前卒
総合人間 学 部	432 認 6	255 人	118 人	27 人	6 人	26 人	122 認 1	75 人	43 人	4 人		
		59.0%		41.0%				61.5%		38.5%		
文 学 部	651 認 2	399 人	194 人	32 人	6 人	20 人	224 認 1	135 人	81 人	6 人		2 人
		61.3%		38.7%				60.3%		39.7%		
教育学部	207 認 2	131 人	51 人	15 人	3 人	7 人	61 認 1	37 人	20 人	4 人		
		63.3%		36.7%				60.7%		39.3%		
法 学 部	791 認 9 他 2	490 認 1 他 1	233 認 1 他 1	30 人	10 人	28 認 7	327 認 1	197 人	117 認 1	11 人	1 人	1 人
		61.9%		38.1%				60.2%		39.8%		
経済学部	803 認 6	468 認 4	255 認 2	51 人	10 人	19 人	241 認 4	134 認 2	91 認 2	13 人	1 人	2 人
		58.3%		41.7%				55.6%		44.4%		
理 学 部	865 認 16 他 2	555 認 8 他 2	205 認 2	44 認 4	8 認 2	53 人	312 認 3 他 1	215 認 2 他 1	84 認 1	6 人	1 人	6 人
		64.2%		35.8%				68.9%		31.1%		
医 学 部 医 学 科	321 認 3	153 人	74 人	26 人	12 人	56 認 1	105 認 1	59 人	33 人	11 人	2 人	
		47.7%		52.3%				56.2%		43.8%		
医 学 部 保健学科	469 認 9	310 認 1	109 認 4	19 認 2	4 人	27 認 2	153 認 1	100 人	40 認 1	5 人	1 人	7 人
		66.1%		33.9%				65.4%		34.6%		
薬 学 部	231 認 3 他 1	152 認 1	44 認 1	19 認 1	4 人	12 他 1	82 認 1	60 人	18 人	3 人	1 人	
		65.8%		34.2%				73.2%		26.8%		
工 学 部	2,401 認 14 他 1	1,617 認 4 他 1	649 認 5	64 認 1	19 認 2	52 認 2	971 認 1	678 人	275 人	12 人	2 人	4 人
		67.3%		32.7%				69.8%		30.2%		
農 学 部	796 認 7	529 認 2	204 認 3	39 認 1	6 人	18 認 1	314 認 1	201 人	101 人	10 人	1 人	1 人
		66.5%		33.5%				64.0%		36.0%		
合 計	7,967 認 75 他 6	5,059 認 21 他 4	2,136 認 20 他 1	366 認 11	88 認 7	318 認 16 他 1	2,912 認 10 他 1	1,891 認 4 他 1	903 認 5	85 認 1	10 人	23 人
		63.5%		36.5%				64.9%		35.1%		

〔外国学校出身者のための選考に係る入学資格取得年別調（外数）〕

学 部	志 願 者		入 学 者	
	総 数	現 役 19.4～20.3卒	浪 人 19. 3以前卒	総 数
法 学 部	32 人	26 人	6 人	8 人
		81.3%	18.8%	
経済学部	21 人	16 人	5 人	8 人
		76.2%	23.8%	

認…高等学校卒業程度認定試験合格者  
 (大学入学資格検定合格者含む)  
 他…その他の入学資格取得者

## 話題

## 「第1回京都大学地球環境フォーラム」を開催

4月19日(土)に「第1回京都大学地球環境フォーラム」が百周年時計台記念館で開催された。本フォーラムは、大学院地球環境学堂、京都サステナビリティ・イニシアティブが主催し、京都大学の各研究科、研究所で実施されている地球環境科学に関する研究成果を広く学内外に公開し、今後の社会の有り様を市民の皆様と共に考えることを目的としたものである。第1回は「低炭素社会を目指して」をテーマとして、4件の講演、並びに総合討論が行われた。嘉門雅史地球環境学堂長、松本 紘理事・副学長から本フォーラム開催の経緯、主旨が説明され、次いで松下和夫地球環境学堂教授が「バリ会議から洞爺湖サミットを展望する」と題して地球温暖化・気候変動への国際対応についての最新の状況、松岡 譲工学研究科教授が「低炭素社会の実現に向けて」と題して低炭素社会の実現に向けた統合評価モデルと具体方策のデザインをそれぞれ示した。休憩をはさんで、石原慶一エネルギー科学研究科教授が「エコリサイクルのすすめ」と題してリサイクルの必要性和効用に関する科学的分析結果、矢野浩之生存圏研究所教授が「未来を創るバイオ材料」と題してバイオナノファイバーの低環境負荷材料としての利用可能性を紹介した。その後、講演者が再度登壇して総合討

論が行われ、市民や学生から、低炭素社会実現の可能性や我が国の取るべき対応、国際的な立場に関して活発な発言があった。最後に井合 進京都サステナビリティ・イニシアティブ統括ディレクターの総括をもって盛会の内に終了した。

当日は約380名の参加があり、参加者アンケートにも京都大学への期待、フォーラムに対する感想、批評など数多くのご意見が寄せられ関心の高さがうかがえた。これらの意見を反映しつつ、第2回(平成20年9月13日開催予定)、第3回(平成21年1月10日開催予定)と継続して京都大学での環境科学技術に関する研究・教育成果を積極的に発信していく予定である。



第1回京都大学地球環境フォーラム  
(地球環境学堂)

## 宇治キャンパスで平成20年度新入大学院生等のための安全衛生教育を実施

宇治キャンパスでは5月1日(木)に今年度より宇治キャンパス内で実習、研究を実施することとなった大学院生、4回生、及び新規配属になった教職員等を対象に、平成20年度新入大学院生等のための安全衛生教育を実施した。



挨拶する川井秀一生存圏研究所長

宇治地区部局長会議世話部局である川井秀一生存圏研究所長の挨拶の後、宇治事業場総括安全衛生管理者の宗林由樹化学研究所教授、宇治地区

総合環境安全管理センター長の石川裕彦防災研究所教授ほか衛生委員会委員等により、化学物質管理や廃棄物・排水の取扱いなど宇治事業場での研究、

実験の実態に即した安全衛生の講習が行われた。

実験等で発生する事故の危険度と、人的被害、危険の防止と安全対策に関心が寄せられ、学生253名、教職員90名、併せて343名の受講者は熱心に耳を傾けた。



講習に耳を傾ける受講者

(宇治地区事務部)

## 訃報

このたび、<sup>あだちのりひこ</sup>足立紀彦名誉教授、<sup>たけがみよしのぶ</sup>武上善信名誉教授が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。  
以下に両名誉教授の略歴、業績等を紹介いたします。

## 足立 紀彦 名誉教授



足立紀彦先生は、3月28日逝去された。享年67。

先生は、昭和39年京都大学工学部数理工学科を卒業、同大学院に進学後、同41年に京都大学工学部助手、その後、助教授、新潟大学工学部教授を経て、平成4年京都大学大学院工学研究科応用システム科学専攻機械電子制御論講座を担当。同10年4月から京都大学大学院情報学研究科システム科学専攻システム構成論講座を担当された。同16年3月定年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、京都大学大学院情報学研究科設置準備委員会委員、大

学院審議会審議員、工学部情報学科長を務められ、研究科の設立、学科の管理運営に尽力された。退官後は、奈良産業大学情報学部教授を務められた。

先生はシステム理論、機械システム制御に関し優れた研究成果を残され、多大な貢献をなされた。特に、非線形システムの安定性、機械システムの適応・学習制御に関する研究に関し、昭和49年度計測自動制御学会論文賞、平成13年度人工知能学会論文賞を授与されるなど、研究成果は高く評価された。先生はシステム制御情報学会評議員、計測自動制御学会誌編集委員会委員などを務められ、多くの人材を育成されるとともに、学会の発展にも寄与された。

(大学院情報学研究科)

## 武上 善信 名誉教授



武上善信先生は、5月6日逝去された。享年88歳。

先生は、昭和16年9月京都帝国大学工学部燃料化学科を卒業され、その後、大学院在籍のまま陸軍技術将校として勤務され、同21年同大学工学部講師に着任、助教授を経て同27年4月教授に就任、燃料化学教室第五講座を担当された。講座名はその後ガス化学講座に改められ、さらに同41年石油化学科への学科改組に伴い石油変換工学講座に改められた。同53年に触媒工学講座に担任換えとなり、同58年4月、停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。退官後は中部工業大学(現中部大学)工業化学科教授となられ、平成2年3月まで務められた。

先生は有機金属錯体を用いる触媒反応に関して先

駆的な研究をされ、また、石炭などの重質炭素資源に関する基礎から応用に至る研究を展開された。さらに、石炭の間接液化のための触媒に関する研究においても多くの成果を挙げられ、これらの業績により、燃料協会賞や石油学会賞が授与されている。また、関連分野で多くの人材を輩出した。これらの教育研究活動により、同6年4月29日勲二等瑞宝章を授けられた。

先生は、成績や思想信条などに関わらず学生を可愛がられ、ご自宅には学生の訪れぬ日はないというほどであった。葬儀は5月8日執り行われたが、多数の卒業生が集まり、出棺にあたっては、先生の愛された琵琶湖周航の歌を参列者全員が合唱して、先生との最後の別れを惜しんだ。

(大学院工学研究科)



## 公開講座

## 平成20年度(第72回)京都大学 食と農のマネジメント・セミナー

(「農林経済・経営・簿記講習会」より名称変更)

1. 内 容：第1クラス 農業経営におけるビジネス・マインド養成のための基礎実習(定員25名)  
 第2クラス 地域農業・農業経営のコーディネートケースメソッドを用いてー(定員25名)  
 第3クラス 食品トレーサビリティの原理と応用(ケースメソッド)(定員100名)
2. 日 時：第1クラス 平成21年1月13日9時～15日17時  
 基礎講義(希望者のみ 平成21年1月11日～12日)  
 第2クラス 平成20年7月29日12時45分～31日17時  
 第3クラス 平成20年7月23日10時～25日17時
3. 対 象：行政・団体職員・高等学校教諭・農業者・食品企業・食品関連企業等
4. 場 所：第1・3クラスは農学部講義室等 第2クラスは綾部市里山交流センター
5. 講 師：農学研究科教授 新山陽子他8名
6. 受 講 料：第1・第2クラス 各9,200円, 第3クラス 15,000円, 初日のみ参加の場合 5,000円
7. 申 込 方 法：開催要領及び申込用紙を下記まで請求してください。  
 申込用紙はホームページからもダウンロード可能です。  
 申込書に必要事項を記入し、返信用封筒(長3規格, 切手80円貼付, 返信先の住所・氏名記入)  
 を同封のうえ申し込んでください。申込受理後、受講者決定通知及び講習会案内を発送します。
8. 申 込 期 間：平成20年6月2日～7月4日まで(必着・定員になり次第締切ります。)
9. 問 合 せ 先：〒606-8502 京都市左京区北白川追分町  
 農学研究科生物資源経済学専攻「公開講座係」あて  
 TEL：075-753-6200  
 詳細はホームページをご覧ください。  
[http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news\\_data/h/h1/2008/news4/090115\\_1.htm](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/2008/news4/090115_1.htm)

## フィールド科学教育研究センター公開講座2008

## 森のしくみとその役割 ー変わりゆく芦生の森と生き物たちー

プログラム(天候等によりプログラムの変更があります。)

7月25日(金)「講義Ⅰ：芦生の森の概要、樹木識別」

7月26日(土)「野外実習：森の観察・体験学習」

7月27日(日)「講義Ⅱ：芦生の生き物」

講 師

高柳 敦 京都大学農学研究科 講師

山崎 理正 京都大学農学研究科 助教

梶田 学 日本鳥学会 会員

他 京都大学フィールド科学教育研究センタースタッフ

1. 日 時：平成20年 7 月25日(金)13時～27日(日)12時(2泊3日)
2. 場 所：フィールド科学教育研究センター 芦生研究林(京都府南丹市美山町芦生)
3. 交通手段：JR 園部駅より送迎バスまたは自家用車
4. 定 員：30名(応募者多数の場合は抽選)
5. 受講料：8,200円(ただし、宿泊費など別途[約17,000円]必要)
6. 申込方法：往復はがき(1名につき1枚)に住所、氏名(フリガナ)、年齢、性別と連絡先(電話番号・FAX 番号・E-mail のアドレス)、交通手段(送迎バスまたは自家用車)を記入し、返信用はがきには郵便番号、宛先を記入のうえ 6 月30日(月)《必着》までにお申し込みください。(ただし、小学生は不可、中学生は保護者同伴に限ります。)  
※個人情報 は本公開講座の運営のみに使用いたします。
7. 申込・問合せ先：〒606-8502 京都市左京区北白川追分町  
農学研究科等事務部教育・研究協力課研究協力掛宛  
TEL：075-753-6411 FAX：075-753-6005  
E-mail：sympo@adm.kais.kyoto-u.ac.jp
8. その他：詳細は、フィールド科学教育研究センターのホームページをご覧ください。  
<http://www.fserc.kais.kyoto-u.ac.jp>

---

## 再生医科学研究所第3回公開講演会 「再生医学に必要なものーからだの自然治癒力とともにー」

1. 日 時：7 月26日(土)14:00～16:10
2. 場 所：時計台記念館百周年記念ホール
3. 演題と講師：「からだを守る免疫の不思議」 再生医科学研究所 所長・教授 坂口 志文  
「ここまで進んだからだをよみがえらせる材料」 再生医科学研究所 教授 田畑 泰彦
4. 定 員：500名(先着順で定員締切り後に申込まれた方にのみ、受講不可の連絡をいたします。)
5. 受講料：無料
6. 申込方法：E-mail, FAX, はがきのいずれかに、氏名(複数申込可)・連絡先(住所・メールアドレス・電話番号・FAX 番号等)を記入のうえ、下記の問合せ先へお申し込みください。
7. 申込締切：7 月18日(金)
8. 問合せ先：再生医科学研究所 公開講演会係  
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53  
TEL：075-751-3802・3803 FAX：075-751-4646  
E-mail：soumu@frontier.kyoto-u.ac.jp  
詳細は再生医科学研究所ホームページをご覧ください。  
<http://www.frontier.kyoto-u.ac.jp/>

## 理学研究科数学教室公開講座「現代数学展望」

1. 日 時：8月4日(月)～8月6日(水) 各日10:00～17:00(3日間)
2. 場 所：理学研究科3号館110講演室
3. 内 容：フェルマー予想，佐藤-テイト予想，ラングランズ予想  
行列の解析学  
行列積分とグラフの数え上げ
4. 受 講 料：一般 5,000 円(受講決定通知後に銀行振込にて受講料を納入願います。  
高校生 無料(後日返送する受講決定通知と学生証の提示が必要。)
5. 受 付 期 間：6月1日～6月30日
6. 問 合 せ 先：理学研究科数学教室 TEL:075-753-3700  
詳細は，理学研究科数学教室ホームページをご覧ください。  
<http://www.math.kyoto-u.ac.jp/koukai.html>

教 授 加藤 和也  
教 授 泉 正己  
講 師 小西由紀子

## 数理解析研究所 数学入門公開講座

1. 日 時：平成20年8月4日(月)～8月7日(木) 各日10:30～16:00  
(8月8日(金)に，各講師に自由に質問・討論できるオフィスアワーを設けています。)
2. 場 所：数理解析研究所4階大講演室
3. 演題及び講師：シューベルト計算入門  
関数の歴史  
量子古典対応とミクロ・マクロ双対性
4. 受 講 料：7,200円
5. 受 付 期 間：6月9日(月)～7月14日(月)17:00(必着)
6. 問 合 せ 先：数理解析研究所総務掛「数学入門公開講座」係  
TEL:075-753-7203 FAX:075-753-7272  
E-mail:kouza@kurims.kyoto-u.ac.jp  
詳細は数理解析研究所ホームページをご覧ください。  
<http://www.kurims.kyoto-u.ac.jp/ja/special-01.html>

助 教 阿部 健  
教 授 岡本 久  
准教授 小嶋 泉



## 霊長類研究所公開講座「サルから学ぶ」

1. 日 時：8月21日(木)・22日(金) 10:00～17:00
2. 場 所：霊長類研究所(愛知県犬山市官林41-2)
3. 内 容：講義と実習(実習は2つ選択・・・申込に際しては第3希望までお書きください)
 

講義 「人類化石から探ることばの起源」	西村 剛
「人間性とはなにか」	正高 信男
「サルの群れの栄枯盛衰―屋久島のニホンザルの人口変動と社会変動―」	半谷 吾郎
「サル飼育の新しい形―リサーチリソースステーションの試み―」	松林 清明
実習 社会生態「ニホンザルの行動観察」	橋本 千絵
分子生理「ゲノム・遺伝子実習」	今井 啓雄
心理学「チンパンジーの行動実験」	友永 雅己
脳科学「脳を見る」	三上 章允・宮地 重弘
4. 定 員：60名
5. 受 講 料：7,200円
6. 申 込 締 切：7月18日(金曜日)
7. 問 合 せ 先：霊長類研究所総務掛
 

TEL：0568-63-0512 FAX：0568-63-0085

E-mail：inuyama2008@pri.kyoto-u.ac.jp

詳細は霊長類研究所ホームページをご覧ください。

<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>

## お知らせ

### 無料法律相談のお知らせ

—7月実施分について申し込みを受付中—

法科大学院では、授業の一環として行う法律相談実務演習(リーガル・クリニック)において、無料法律相談を実施しております。

この無料法律相談は、日常生活の中で生じるさまざまな法律問題について、弁護士の立会いと指導のもと、既に法律知識を習得している法科大学院3年次の学生が市民の方々からのご相談に乗り、必要な助言を行うものです。(秘密は厳守いたします。)

現在、7月実施分について申し込みを受付中です。

(実施日)7月3日(木)、4日(金)、8日(火)

なお、後期は9月中旬頃から(相談実施は10～12月)の受付となります。

[問合せ先]

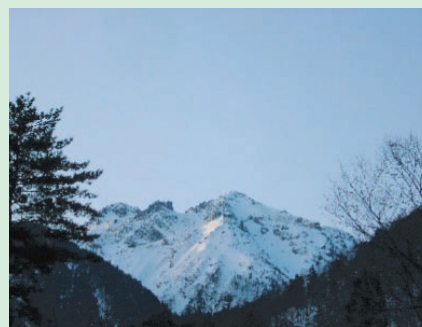
京都大学法科大学院 リーガル・クリニック担当

TEL：075-753-3262 FAX：075-753-3129(午前10時～午後5時／土日祝休)

詳細は法科大学院ホームページをご覧ください。

<http://lawschool.law.kyoto-u.ac.jp/kusunoki.html>

## 隔地施設 紹介



### 防災研究所附属流域災害研究センター穂高砂防観測所

(<http://www.okuhida-dsl.com/kansoku/hodaka.htm>)

岐阜県と長野県の県境に位置する活火山「焼岳」の岐阜県側の麓に穂高砂防観測所があります。その焼岳を挟んで長野県側には、屈指の観光地「上高地」があり、北に目を転じれば穂高連山や笠ヶ岳といった標高3,000m程の山々が連なり、まさに飛騨山脈の中心部に位置していることが実感できます。平成17年2月に市町村合併する前は、「吉城郡上宝村」という住所でしたが、合併後は「高山市奥飛騨温泉郷」となり、温泉があることが一目瞭然となってしまいました。観測所の周りでは泉源から立ち昇る硫黄の香りが漂い、少し足を伸ばせば温泉旅館が立ち並ぶ風向明媚な土地です。観測所の標高は1,150mであり、夏場すこし暑いということはご想像のとおりで、エアコンとは無縁のまさに別天地といったところです。が、一方、冬場の寒さは厳しく、辺りは一面の雪に閉ざされます。その光景は美しくもありますが、都会ではなかなかお目にかかれない“自然の凶暴な一面”を間近に見ることができます(安全面には気を付けています)。施設としては、面積11,415m<sup>2</sup>の敷地に観測所本館、土砂特性試験室、物置2棟が近接して建っています。

**沿革** 穂高砂防観測所は、1965年(昭和40年)防災研究所における砂防部門の新設と同時に開設され、2年後の1967年(昭和42年)に、防災研究所の附属施設となりました。1996年(平成8年)に災害観測実験センター、2005年(平成17年)に流域災害研究センターと、所属を変え現在に至っています。

**研究・教育** 穂高砂防観測所の最大のミッションは、土砂災害の防止・軽減を目的として、山岳流域における土砂流出の実態を明らかにすることであり、活火山「焼岳」を含む山岳流域を対象に様々な観測を行っています。山岳流域を対象とした土砂流出現象を継続的に観測している施設は、世界的にも例がない、貴重な施設といえます。最近では、土砂流出に関わる山岳降雨、土砂生産現象の実態解明や、土砂流出が河川に生息する生物相に与える影響を明らかにすることなどにも力を入れており、山岳地帯での土砂流動を中心とした自然現象全体を研究対象とする「山岳研究」を担うフィールドステーションを目指しています。

防災研究所や工学研究科、農学研究科、さらには京都大学以外の大学に所属する学生達が現地観測や実験を行いに頻繁に観測所を訪れ、実際に起こっている現象を目で見ることの大切さを実感しているようです。



現地調査・観測・実験を行う学生達（左上：土砂流出実験，右上：凍結融解の調査，左下：山岳降雨観測，右下：溪流生態系調査）



大学教育の一環として、1回生対象のポケットゼミを開催し、山岳地帯での自然災害、水・土砂の流出、溪流生態系調査の実習等を行っています。

さらに、年に1,2回の頻度で学内外の研究者が集い、土砂流出やその周辺分野に関する研究発表を行う集会を開催しており、多いときには50名を超える参加者が山間の温泉町に集います。

**社会貢献** 砂防や土木系の民間企業の若手技術者を招き、「土木・砂防技術者のための奥飛騨砂防研修会」と銘打った研修会を地元のNPOの方々と共同で催しています。昨年度は、7名の技術者が受講され、試験堰堤からの排砂とその後の土砂流出追跡など、観測所ならではの内容を豊富に取り入れた研修を行いました。

また、地元小学校の「砂防学習」に協力しています。昨年度は、活火山「焼岳」と土砂災害・砂防との関係に関する授業を行い、その後、焼岳登山にも同行し話をしました。さらに、スーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)の取り組みに協力し、観測所において高校生を対象に土砂災害やその対策といった内容の講義を行っています。

**おわりに** 穂高砂防観測所は、日本を代表する山岳地帯の真中に位置し、土砂流出とそれに関連する自然現象の調査・研究を行う上で、絶好の条件がそろっています。また、自然や温泉などにも恵まれ、常駐する職員はもとより、学内外から研究者が何度でも訪れたいくなる環境であると自負しています。京都から遠いということが難点ですが、幸い、旧上宝村地区には、同じ防災研の上宝地震観測所や、理学研究科の飛騨天文台があり、協力した活動を進めようとしています。

これら多くの方々に支えられて40年以上の間、観測・研究を続けてくることができました。これからも学内外・分野を問わず、オープンな観測所であり続けたいと考えていますので、皆様も一度足を運んでいただければ幸いです。

〒506-1422 岐阜県高山市奥飛騨温泉郷中尾436-13  
TEL: 0578-89-2154, FAX: 0578-89-2835  
E-mail: tsutsumi@sabom.dpri.kyoto-u.ac.jp



研究集会後の記念撮影



調査流域に現れたニホンカモシカ



観測所玄関前にて

#### 職員構成

准教授	1名
技術職員	1名

#### アクセス

- ・JR 高山駅から、濃飛バス「高山～平湯温泉～新穂高線」に乗車「中尾湯元」にて下車
- ・「中尾湯元」からは徒歩10分(「中尾高原口」からは徒歩25分)